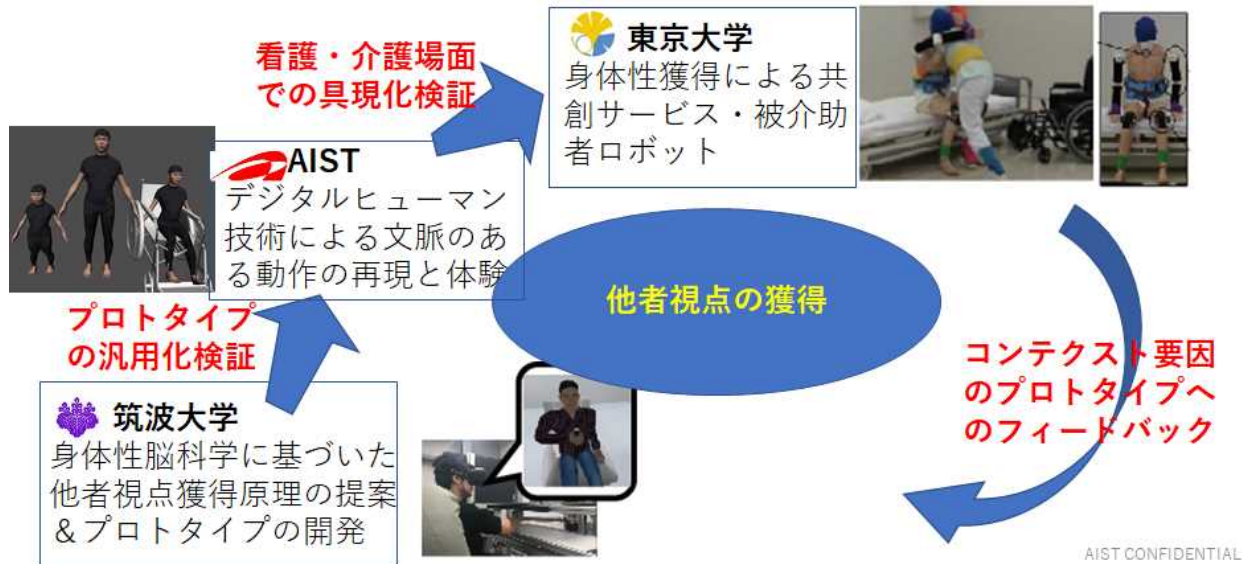


# 卓越コミュニケーション訓練システムの開発原理と評価 Development of communication training system

リーダーシップ育成や共創的サービスを実現するメタ視点養成ギプスのプロトタイプ作成と  
フィジビリティテストを実施



## メタ視点養成ギプス プロトタイプ

アバターを観測しながら運動学習



自分から相手へ  
視点の変換が必要

システムは完成  
実証実験の本格化が必要

- これまでの研究で、脳内身体表現の座標系とコミュニケーション能力には密接な関係があることが明らかになった。
- 身体表現が固有感覚座標系で表現されている場合にはコミュニケーションスコアが低い
- 外部座標系で表現される身体表現を訓練することによって、コミュニケーション能力を向上させる。
- 自己視点と他者視点を切り替えながら運動を学習させることによって、メタ視点の養成を導く。

## 身体性変容と通信による共創社会



- 筑波大学は身体性脳科学に基づいた他者視点獲得原理の提案とプロトタイプ開発行う。
- このプロトタイプが、介護などの身体性サービスへ適用かのだろうか、産総研がVR空間上のシミュレーション実験によって確認する。
- 提案システムの具現化検証を、東京大学が被介護者ロボットを実施する。

- 身体性システム科学(新学術)における成果を発展させ、身体性変容によるパーソナリティ改善技術を開発。
- **身体と仮想の融合**による卓越コミュニケーションと共創サービスを実現(Society 5.0)。
- 他者視点獲得技術の確立、サービス工学への応用